



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会
2018年10月27日 第98号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県TEACCHプログラム研究会広報部
事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内 TEL 043-227-8557
ホームページ：<http://www5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

平成30年度 第3回 連続セミナー



「タイプの違う二人のASD児の保護者として」 山梨県TEACCHプログラム研究会代表 中井 百合子氏

ダウン症と診断された後、長年経ってASD（自閉スペクトラム症）の特性があることがわかった次男Aさんと、ASDで障害者雇用制度を利用し株式会社に勤務している長女Bさんについて、子育てや成人になってからの支援等をたくさんのエピソードを交えてお話しいただきました。

まず、**子育てで大切にしていること**として、次の5点を挙げていただきました。

- 子どもたち一人ひとりには**それぞれの夢や暮らし**があること
- 障害の有無よりも**その子らしさを大切に**
- 順調な時は見守り、困っているときは親の出番
- 子育てを外注に出さない(人の手を借りないということではない)
- 対等な人格を持った人間同士として信頼関係の構築**

次男Aさんについては「出生直後にダウン症と診断され、療育機関に通ったが成果が上がらず、養護学校でも激しい自傷行為を引き起こし、療育の場として施設を利用した。その後、TEACCHを学んでいるときに『A(さん)もASDの特性を持っているのでは』と気づき、生活にスケジュールや自立課題を取り入れた。40歳を過ぎた現在、今まで身につけた力の延長として、できることが増えている。A(さん)の気持ちの理解と共に意思疎通ができ、大変嬉しい。」と話されました。課題や家事に取り組むAさんの様子がビデオで紹介されましたが、穏やかな表情が印象的でした。また、「**ASDであると気づくまでに長い時間がかかってしまった**。事業所でも指摘がなかった。本人への**正しいアセスメント、客観的なデータに基づいて**支援計画を立て、親にもその情報を提供してほしい。」と話されました。これは、我々、支援をする立場の者にとって、重く受け止めなければならないことだと心に刻みました。

長女Bさんについては「幼少期、言葉は話せるものの、会話が成立しない。こだわりも強いという特性に対し、環境の意味を分かりやすく伝える、意味あるコミュニケーションを支援自己肯定感を育てることを大切にしました。小学校時代は身辺自立と選択等ができるように、中学校時代は勤勉性を養えるように、高校時代は自立を見据え「**自分の人生は自分で決めることができるように**」支援してきた。卒業後、『**一人暮らしをしたい**』という本人の希望を受け、①どんな暮らしがしたいかを図にまとめ、②アパートを選び、③目的と約束事を書き出し、一人暮らしをスタートさせた。**本人の成長や暮らしの変化に合わせ、支援の内容も変えていくこととなった。**」と、スケジュールや郵便物の管理、社会ルールの支援、余暇活動等について写真やビデオで紹介していただきました。最後に「地域生活を送るために必要な力として、**①自己有能感 ②相談する力 ③選択する力**」を示していただき「保護者として『療育機関にお任せではなく、親としての責任を持つ』『親が一人で頑張るのではなく、**周囲の力を借りて本人の豊かな生活を作る仕組みを作る**』等が大切である。」と教えていただきました。

改めて、早期に特性を把握することの重要性和、自分の人生に責任を持てる（自立する）よう支援していくことの大切さを**学びました。本当にありがとうございました。**

千葉県TEACCHプログラム研究会の事務局をしてくださっている
千葉県発達障害者支援センターCASの新センター長 館山さんと竹之内さんを紹介します。



社会福祉法人菜の花会にて21年間直接利用者さんの支援をさせていただいておりましたが、平成30年4月1日、CASセンター長として着任致しました、館山と申します。よろしくお願いいたします。

さて、CASは事務局として千葉県TEACCHプログラム研究会に携わらせていただいておりますが、毎回、多くの受講のご希望をいただき、昨年一昨年と年間の参加者数は延べ700名以上の参加がございます。これは会事務局としても大変嬉しいことではあります。参加人数の多さから状況を考えますと、やはり「自閉症の方々への支援は難しい」と捉えられます。「自閉症の方々の行動問題はどうすれば軽減できるのか?」「毎日安心して暮らしていただくには、どのような工夫をすれば良いのか?」「強度行動障害とされる方々は、何故強度行動障害なのか?」等、これらは支援職員の決まってるの悩みでもありますし、私もその一人でした。私がTEACCHプログラムに出会ったのは約20年前のことです。自閉症の方々への苦手とする部分へのアプローチや環境を整えるといったこと、特に絵カードを使った支援にとっても驚いた記憶があります。この時既にアメリカでは個性に合わせた、オーダーメイドの支援は当たり前だった訳です。

私達の思いはただ一つ。例え強度行動障害と言われる重度の方達でも安心して暮らせるようにすることです。その為には本会の開催するセミナーにおいて日々の悩みを少しでも解決できるよう、何か一つでもヒントがあればと幸いに思います。

これからも皆様のご意見ご要望等取り入れたよりよい研修等企画していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

今年度より千葉県TEACCHプログラム研究会の事務局を担当しております、千葉県発達障害者支援センターCAS相談員の竹之内 孝明と申します。大学院を卒業後、児童発達支援センターで療育指導、相談支援を担当した後、2017年よりCASで勤務しております。CASは千葉市を除く県内全域から多くのお問い合わせをいただいております、平成29年度の直接支援としての延べ支援件数は1466件となりました。また、間接支援として幼児期/学齢期~青年・成人期の支援関係者を対象とした発達支援、相談支援の実施、就労支援機関へのコンサルテーションやハローワーク職員研修といった就労支援を実施しています。その他、保護者支援としてのペアレント・メンター事業やペアレント・トレーニング実施支援に加え、行動障害に係る支援関係者を対象とした取り組みとして、強度行動障害のある方の支援者に対する研修の運営を行っております。



千葉県TEACCHプログラム研究会には昨年度、運営補助として研修等に参加させていただきました。前半の理念に関するお話、後半のライフステージに応じた支援の取り組みや年度末の実践発表会と、発達障害を持つ当事者やその方々への支援を行う者として、多くのことを学ぶ非常に貴重な機会となりました。今後も多くの方にTEACCHの理念や自閉症支援について知っていただくと共に、支援者の皆様にとってもより良い支援の一助となるよう、魅力的な研修会の実施や円滑な運営に力を注ぎたいと思います。

平成29年度 TEACCHプログラム研究会 第5回連続セミナーのお知らせ

日時：12月16日(日) 13:30-16:30 (13:00受付開始)
内容：「成人期の支援：視覚支援の取り組み」(仮題)
講師：梅永 雄二 氏 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授)
会場：千葉県教育会館501会議室 (千葉市中央区中央4-13-10)



